

東京桑野会会報

●2023年4月1日発行 ●発行・編集人 石井俊一 ●発行所 東京桑野会事務局 〒104-0061 東京都中央区銀座八丁目8番15号 青柳ビル7階 石井綜合事務所内



No.45

「旧本館」
野田 葵 (137期)

- ①桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会であること
- ②会員はみんな仲良く相親しみ楽しい会であること
- ③何らかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること

ご挨拶

東京桑野会会長
浅川 章 (76期)



1972年9月、田中角栄首相が北京を訪問し、日本と中国が国交を正常化してから50年が経った。半世紀前のキーワードは、日中友好。中国は日中戦争で疲弊した国の復興途上にあって、文化大革命の混乱の渦中にあった。日本は戦争で多大な損害を与えたとの認識に立って、資金・企画・技術等、強力な支援を進めて、復興とその後の中国の改革開放路線を後押しした。

この半世紀の間に冷戦は終結し、ソ連に代わり中国が台頭し経済成長著しく、21世紀に入って世界第2位の経済規模となり、強大な軍勢力も手にした。現在、3期目に入った周近平政権は「中華民族の偉大な復興」

を唱え、米国との覇権をめぐる対立が世界を揺さぶっている。

中国の経済規模は2010年に日本を追い越し、今や日本の4倍近くに膨らんだ。国交正常化当時の蜜月時代は遙か過ぎ去り、尖閣諸島、歴史認識等をめぐり摩擦は絶えず、日中関係は国交正常化以降、最も厳しい状況にある。

今後の日中関係はどうなるのか。日本はこの巨大な隣国といかに向き合うべきか。この機に改めて考えたい。

東京桑野会2023（令和5）年度定期総会・懇親会のお知らせ

東京桑野会では下記の要領にて、定期総会・懇親会の開催を予定しております。本年の総会を実施する場合、次の要領で行うこととなりますので、あらかじめご承知おきください。

(1) 日 時：令和5年6月2日（金曜日） 17:00 受付開始

17:30 総会開始

(2) 場 所：ホテル椿山荘東京

東京都文京区関口2-10-8 TEL03-3943-1111

(3) 会 費：懇親会費 ¥10,000（年会費は含みません）

(4) タイムスケジュール

17:00～ 受付開始

17:30～ 令和5年度定期総会

18:00～ 懇親会

19:00 解散

●当日は、総会・懇親会とも、参加者はテーブル席にておこないます。

①同封のハガキには、出席者のみ連絡先等明記のうえ投函願います。

②年会費2,000円は、総会出席の有無とは別に、同封用紙によりお振込をお願いします。

③懇親会費10,000円は、総会当日、現金でお支払いください。

◇昨年度は、2022年6月3日（金曜日）に開催いたしました。3年ぶりの開催となりました。

☆母校は今年（2023年、令和5年）、創立139周年を迎えます。その母校の現在の様子を、母校からの情報をもとに紹介いたします。

☆新型コロナウイルス（COVID-19）禍とともに始まった令和2年4月入学の136期生の安高生活。マスクを外して、友と語り合う時間は、限られたものであったでしょう（ほとんど、なかったかもしれない）。3月の卒業式には、マスクを外した笑顔での写真がとれましたよね。その友と再び語り合うのは、4月からの新しい生活の中で新たな経験を積んでからでしょうか。その時、しっかりと友の顔を見ましよう。

☆136期生は、138周年の紫旗祭で、大爆発した！最高学年として、リーダーシップを発揮した。その写真を見ると、うむ、いい顔しているわ。素敵な笑顔に先輩は嬉しいぞ。

☆3年ぶりに校内ロードレース大会も開催されました。平成27年以來の東山霊園コースでの開催とのことでした。うむ、ちょっと校内ロードレースの歴史を調べてみようかな、いろいろ

な歴史があるようです。

☆部活も様々な動きがありました。スポーツ部でひとつ例をあげると、水泳部は、個人でのインターハイ出場や東北大会への出場。前年度はコロナ過で中止だったので、喜びも格別でしたね。国体へも出場だそうです。文武両道、スゴイ。文化部でもひとつ例を。物理部が全国物理コンテスト全国大会出場。日本はノーベル物理学賞受賞者を数多く輩出している国です。物理学を嗜好・指向・思考する若者の育成に、大きな効果があるイベントですね。スゴイ。

☆安高伝統の応援団の幹部がゼロ人になったというニュースが来しました。2022年夏に3年生の応援団長が引退し、幹部がゼロとなったとのこと。新型コロナウイルスの影響で、新入生らに活動をアピールする場が減ったことなどが背景にあるとみられるとのこと。難しいな…。

☆母校は、2025年度（令和7年度）より併設型中高一貫校へと生まれ変わります。2023年11月より併設中学校校舎の建設が始まるとのこと。これに

伴い図書館（桑野文庫）が取り壊され、新校舎内に新たな図書館が設置される予定です。そっか、こわされる図書館の一室、超優秀生徒が根城にしており、ワシは怖くて在学中一度も足を踏み入れたことがなかった…。新しい図書館、入ってみたいなあ。

☆コロナ禍の中の大学受験でも、後輩達は頑張りました。現役生（135期生）だけでも、国公立は計167名の合格となりました。私立大学では、東京の有名私立大学にも多数の合格者を出しています。首都圏に来た若き安積OB・OGよ、東京桑野会に来たれ！君たちの先輩は、君達後輩を、大いに歓迎します。

会員消息

○逝去された方々のご冥福をお祈りいたします。（ ）は期、逝去された日。敬称略。

佐藤 春三(43期)(※20年以上前に逝去を確認)

佐藤 静司(45期)(2021年9月12日)

関根 善範(51期)(2021年5月19日)
 羽染 竹一(51期)(2010年8月4日)
 櫛田 精男(54期)(2020年5月9日)
 渡辺 大助(57期)(2018年4月24日)
 大河原平三郎(57期)(2021年4月19日)
 太田 亨二(57期)(2022年9月2日)
 大平 重幸(57期)(2022年6月11日)
 佐藤 善哉(57期)(2022年7月19日)
 山本 佳(58期)(2020年7月23日)

壁谷 正己(58期)(2021年9月25日)
 村山 俊司(61期)(2022年2月9日)
 水野 勉(61期)(2022年1月2日)
 鶴沼 直雄(63期)(2021年7月7日)
 上野 芳夫(64期)(2014年6月15日)
 今泉 幸男(65期)(2022年1月18日)
 山本 博(65期)(2021年9月14日)
 今泉 徹(65期)(2021年9月16日)
 青木 孝郎(69期)(2020年12月23日)

岩山 勝治(69期)(2015年逝去)
 渡辺 光造(71期)(2022年7月4日)
 伊藤 勝彦(74期)
 横田 豊(74期)(2019年11月10日)
 一色 浩義(77期)(2022年2月1日)
 橋本 久信(78期)(2020年1月30日)
 溝口 裕明(90期)(2015年8月30日)
 増子 浩重(92期)(2022年5月22日)
 青木 泰彦(100期)(2021年11月18日)



課題の克服

安積桑野会会長
 安孫子健一(80期)

東京桑野会の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと思います。昨年度も安積桑野会の活動にご支援・ご協力をいただき、心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

新型コロナウイルスの国内感染発生から3年が経過しましたが、感染拡大・縮小を繰り返しながら未だ完全収束には至らず、桑野会活動を始め学校生活にも多くの制約が課され続けています。しかし3年間でウイルスに対する多くの知見が得られ、日常生活も徐々に平常時へと戻りつつあるのではと感じられるようになりました。今年こそは対面での会合や活動が全面再開

されることを期待しています。

各地桑野会総会も中止が続いていましたが、昨年3年振りに東京桑野会と関西桑野会が総会を開催して下さいました。久しぶりでお会いした会員の皆さんは、コロナ禍など何処?と思える澁刺としたお姿で安心を致しました。今年こそは各地桑野会の全てで実施され、皆様とお会いできることを願っています。なお安積桑野会の総会は、昨年も総会と講演会のみでしたが、今年は通常通りの総会行事にしたいと考えています。

昨年の会報で、令和7年母校に中学校が併設され、新たに中高一貫校として開校する旨お知らせしました。その後の進捗状況をお伝えします。

福島県教育庁は1月16日、中高一貫校整備に伴う既存校舎改修解体工事の条件付一般競争を公告しました。安積歴史博物館の南側に中高一貫棟を新設するため、現在ある図書館棟・家庭科総合実習棟を解体し、既存の生物第

1実験室に家庭科総合実習棟の機能を移します。また建設地にある自転車置場は第1体育館の隣地に移転させます。そして中高一貫棟の新設工事は令和5年度後半に公告する予定です。その後令和5～6年度で工事を行い、開校は令和7年度になります。図書館の蔵書類は選別し、安積歴史博物館にも多くの書籍が運び込まれています。昨年末、私も久しぶりに入館しましたが、50年以上前の記憶は定かでなく、多くの卒業生の知の記憶が刻まれた建物に感謝するのみでした。

大変な災害となった東日本大震災から12年が経過しました。震災後も福島県内は毎年の様に大規模な自然災害に見舞われています。令和3年2月13日に発生した福島県沖地震で県内各地は大きな被害を受けました。国指定重要文化財である旧福島県尋常中学校本館(安積歴史博物館)も被災し、館内各所で漆喰壁の亀裂及び剥落等が生じました。文化庁や県の調査の結果、

ひととき、日々の喧噪を離れて。



そこには、さながら森のような庭が広がっています。
 東京のまん中にいるとは思えない、静寂につつまれたやさしい時間と、心ゆくまで味わってください。
 At Hotel Chinzanso Tokyo, we are honored to share this heritage with you through our services and accommodations and especially our legendary garden. Discover the essence of Japanese hospitality.

世界をもてなす、日本がある。

三 HOTEL 椿山莊 TOKYO
 CHINZANSO

ホテル椿山莊東京
 〒112-8680 東京都文京区関口2-10-8
 10-8, Sekiguchi 2-chome, Bunkyo-ku, Tokyo, 112-8680, JAPAN
 TEL.03-3943-1111

亀裂の程度は比較的軽度であるが、開口部廻りや2階講堂では剥離や剥落が著しく、被災部分の補修が必要との判断でした。また、文化庁からは文化財の指針に基づく耐震診断調査を求められ、公益財団法人文化財建造物保存技術協会（文建協）に調査をお願いしたところ、昨年6月に示された評価は、大地震時には建物は大きく変形する可能性があり、最悪の場合は倒壊も有り得るというものでした。この間昨年3月16日に最大震度6強の地震が再び発生し、部分的ではありますが前年の

被害箇所が拡大しました。従来通りの建物使用には耐震補強工事が望ましく、補修工事に併せて実施すれば国の補助も多く受けられるとの文化庁の見解もあり、桑野会及び財団で検討した結果、耐震補強を含めた補修工事を行うことになりました。事業費予定額は未定ですのでまだ最終確定ではありませんが、できるだけ従来の建物の景観を損なわない工法で実施したいと思います。計画内容等決まりましたら皆様にお知らせいたしますので、同窓生の精神的支柱であり地域の宝である安歴

博の復旧事業に、ご理解とご支援をお願いいたします。

さて、母校は来年創立140周年を迎えます。140年の節目と中高一貫校の開校を迎えるまでに、解決すべきいくつかの課題がありますが、同窓会の皆様とともに課題を一つ一つ克服して参りたいと思います。ご協力宜しくお願いいたします。

最後になりましたが、東京桑野会の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。



ポスト・コロナ に向けて

安積高等学校 校長
鈴木芳人

会員の皆様には、日頃より母校に多大なる御支援をいただきますこと、感謝申し上げます。令和4年度、東京桑野会を始め、コロナで見合わせてこれらしていた桑野会各支部の活動が徐々にではありますが再開され、支部総会も久方ぶりに開催されることとなりました。私を含め職員が支部総会にお邪魔し、会員の皆様方と直接お話しして交流させて頂く機会が増えたことは、嬉しい限りであるとともに、母校に寄せる皆様方の熱い期待を伺い、改めて身が引き締まる思いがいたしております。

新型コロナウイルス感染症に翻弄されながらの教育活動も3年目となり、在校生の学校生活は相変わらず多くの制限を受けております。しかし、ウィズ・コロナの動きの中、感染対策を取りながら通常の活動をできる限り取り戻そうという試みが定着し、安積においても前年度まで中断していた行事等の再開を実現することができました。5月には、悪天候による中止もあって実に4年ぶりとなる安積黎明高校との野球部定期戦を開成山球場で実施し、

10月には、これも3年ぶりに校内ロードレース大会を東山霊園で実施いたしました。また、9月2日から4日迄、138周年記念紫旗祭を開催することが叶いました。公開は在校生のご家族に限定させて頂きましたが、安高生の日頃の活動の一端を保護者の皆様を中心にご覧頂けたことは、非常に意義深いことであったと考えております。また、いずれの行事においても、安孫子会長様を始め、桑野会の皆様に多大なるご協力を頂いております。

会員の皆様のご協力を得て今年度から始めた事業として、シニア・サポーター制度があります。現在、高校の教育課程では、カリキュラムに「総合的な探究の時間」が組み入れられており、これは、生徒自らが様々な課題を見つけ、その背景や解決策等を探究し発表すること等が内容となっています。本校は、スーパー・サイエンス・ハイスクールに指定されていることから、「SS探究」の科目名の下、全生徒が複数の班に分かれ、主にSDGsをテーマとして探究活動に取り組んでおります。この研究の過程において、先輩の力をお借りしアドバイス頂くのがシニア・サポーター制度の肝であり、現在、約20名の会員の方にご協力頂いております。各分野の専門的な視点からのアドバイスは、生徒達の新たな気づきに繋がっており、後輩のために

とボランティアでありながら毎週の様子に学校に足を運んでくださる諸先輩の姿に、他校には真似のできない安積の底力を見る思いがいたしております。

さて、コロナ禍による社会の停滞に加え、この1年は、ロシアのウクライナへの侵攻及びその余波が、日本のみならず世界全体に影を落とした年でした。私は、卒業式・入学式の式辞、生徒集会など機会あるごとに、「このような時だからこそ、安積の先輩である朝河貫一博士の平和に対する思いに今一度注目しよう。」と生徒諸君に呼びかけています。

安積の校長室には、昭和28年10月に記された『朝河博士を讀める』という題の書が掲げられています。この中で朝河博士は、その生涯を「光輝ある人類文化の発展と日本の自由なる進路に対する念願の努力とに捧げられた」と最高の賛辞を送られております。この書の末尾に11名の自筆署名があります。順に、金森徳次郎（法学者・第一次吉田内閣憲法担当国務相・初代国立国会図書館長）、田中耕太郎（法学者・第一次吉田内閣文部相・最高裁判所長官）、澁澤敬三（民俗学者・実業家・幣原内閣大蔵相）、窪田空穂（国文学者・歌人・文化功労者）、安倍能成（哲学者・幣原内閣文部相・学習院院長）、高木八尺（政治学者・アメリカ学会創設・東京大学教授）、末延三次（法学

者・英米法研究・東京大学名誉教授)、津田左右吉(歴史学者・実証史学・早稲田大学教授)、上原専祿(歴史学者・東京商科大学学長・一橋大学初代社会学部長)、辻善之助(歴史学者・仏教史研究・東京帝国大学名誉教授)、島田孝一(経済学者・早稲田大学総長・流通経済大学初代学長)。そのいずれもが、戦後日本の社会科学を牽引した大家であるとともに、朝河博士に通じる、実証主義的見地から、時には権力や世論に抗するも厭わない気骨を持つという共通点が見いだせます。時としてこの額を見ると、日本のあるべき進路に想いを馳せた朝河博士には遙かに及ばないにせよ、これからの安積のあるべき姿をどう考えていくか、校長として任せられた職責の重さを改めて感じ、身が引き締まる想いを頂いております。日露戦争後、日本の帝国主義的發展を是とする風潮に対して、冷静な歴史学者としての視点から平和を求め警鐘を鳴らした朝河博士のその凛とした佇まいを、後輩である安高生が受け継いでくれればとの想いを込め、生徒諸君にも語りかけているところです。

令和5年度、コロナウイルス感染症の分類が5類に引き下げられます。この3年間、停滞を余儀なくされ、変化を強いられた学校教育・学校文化を改めて検証していく年となります。コロナの下で急速に進んだICT活用などを更に深化させながら、失われかけた良き文化をいかに立て直すか、安積ばかりでなく、教育界全体の大きな課題です。本校においては、令和7年4月の開校に向け、併設中学校校舎の新築

工事が始まります。希望を胸に入学してくる中学生に対し、安積としてどのような教育があるべきか、これもまた深遠なる課題です。やるべきことは山積しておりますが、教職員は、安積の発展のために全力を尽くしてまいりたいです。

東京桑野会の皆様には、今後とも母校安積高校に対しまして、温かいご支援・御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。



野田 葵 (137期)

技術と奉仕の無線機器部門
ソフト開発と奉仕のコンピュータ機器部門
ニーズに対応、奉仕の電話機器部門
株式会社富士通ゼネラル通信特機特約店
富士通テン株式会社特約店

不法電波は
やめましょう!

ATIS(自動識別装置)を
必ず取り付けましょう!

株式会社 山口電機

www.yamaguchi-denki.co.jp

本社 宇都宮市宮の内2丁目184番地18
水戸支店 水戸市中河内町67番地1
さいたま支店 さいたま市三橋1丁目815番地
東京支店 江戸川区春江町2丁目10番3号
千葉支店 千葉市稲毛区六方町215番地22
高崎支店 高崎市倉賀野町5319番地1
会津若松支店 会津若松市一箕町八幡38番地11号
横浜支店 横浜市青葉区元石川町3719番地8

TEL(028) 655-1600(代表)・FAX(028) 653-7817
TEL(029) 227-2205(代表)・FAX(029) 227-2237
TEL(048) 663-4000(代表)・FAX(048) 663-4274
TEL(03) 3698-1600(代表)・FAX(03) 3698-1699
TEL(043) 423-3000(代表)・FAX(043) 423-3503
TEL(027) 346-4000(代表)・FAX(027) 346-4004
TEL(0242) 23-1700(代表)・FAX(0242) 23-1701
TEL(045) 921-5100(代表)・FAX(045) 921-5416

代表取締役 山口雄機 (74期)

中山義秀、菊池沖之介と久米正雄のこと

久米正雄研究会代表
庄司 一幸 (82期)



1. 私のようなものでも救われるのか

私は30代の初めから福島県のキリスト教史の研究を始めて、35年以上になる。そんななかで、母校の先輩である中山義秀（本名議秀、30期）に出会ったことから、母校の先輩たちや母校の教師たちの生涯を書き遺すことになった。

中山義秀は『厚物咲』で芥川賞を受賞した福島県最初の作家である。

その中山義秀が死の前日に、虎ノ門病院の病室で私設鎌倉山教会牧師門馬義久からキリスト教の洗礼を受けた。

その翌日、義秀は点滴などの管を1本だけを残して抜き、自ら命を絶った。

なぜ、中山義秀が死の前日に受洗したのかというテーマで、義秀の生涯を著したのが、『中山義秀、絶望のなかのキリスト』（平成30年10月17日発行）である。

義秀は、イエスの十字架上の絶望的な死の叫びに自らの救いの光を見出し、文学への野心のために妻を犠牲にして死に至らしめた自責の念から解放されたのである。

なお、中山義秀を授洗した門馬義久牧師は、福島県相馬郡中村町出身で、三浦綾子の『氷点』を世に出した朝日新聞記者でもある。

中山義秀は現代小説『厚物咲』で芥川賞を受賞したが、本来は歴史小説家であり、郡山を舞台にした歴史小説『残照』も書いている。

文政7年間8月24日、郡山村は念願の町に、本宮村とともに昇格した。

この町昇格を記念して弁天（麓山公園）普請による共楽園の造営がすすめられた。

この普請をめぐる事件を取り上げたのが、『残照』である。これを歴史的に検証して著したのが、『中山義秀の「残照」と郡山町の誕生と遊女の句碑』（平成31年4月1日発行）である。

また、15年前に藤沢周平の作品を楽しむ会を立ち上げたことから、藤沢周平と中山義秀の歴史小説を比較し楽しむために、『藤沢周平と中山義秀2人が愛した歴史小説』シリーズを、これまでに2冊出版し、明智光秀（『逆軍の旗』、『咲庵』）、や清河八郎（『回天の門』、『壮士行』）を取り上げた。

2. 校歌の生みの親菊池沖之助

大正2年4月中山義秀は安積中学校に入学し、寄宿舎で先輩に命じられるままに同じ1年生を吊るしあげた。

この現場を、担任の教師に見つかり、一方的に停学処分となった。

義秀は学校に対する不信感を募らせ、学校をさぼり、飲酒喫煙し、茶屋遊びをするなどの放蕩の限りを尽くした。

そのため、職員会議で義秀の退学について話し合われた。その席上、義秀を弁護し、退学の危機から救った一人の教師がいた。

その教師こそ、菊池沖之介（15期）であった。沖之介は「嫩草萌ゆる安達太郎樹影小揺らぐ風もなく」ではじまる校歌の生みの親であり、生徒たちから“沖ちゃん”の愛称で慕われ、絶大な信頼を得ていた。

義秀は退学の危機から救ってくれた沖之介のために、『玉令句集』の巻頭言「古蛙の辨」を書いている。

この句集を企画したのは、安高37期生たちであり、沖之介の傘寿の祝いとして、昭和41年1月25日に刊行した。

この句集には、沖之介が最愛の息子清（46期）を、亡くした時の句が載っている。

つゝ、じ燃ゆる門を柩車に開きけり

菊池清は、昭和18年5月17日に26歳で病没した。東京帝国大学工学部建築科在学中であった。

沖之介は安積中学校在学中に、一竿という号で、群峯吟社の課題句に応募している。

また、早稲田大学在学中に玉令と号を改め、生涯にわたって句を詠み続けた。

菊池沖之介は、昭和44年6月14日妻エイの後を追うように亡くなった、

行年84歳であった。

沖之介の教え子たちが30人ほど集まり、墓の前で泣きながら校歌を歌い、恩師との別れを惜しんだ。

この菊池沖之介の生涯を著したのが、『群峰吟社』とともに歩んだ俳人菊池玉令の生涯』（令和2年6月5日発行）である。

3. 魚城の三汀、ここに誕生する

魚城移るにや寒月の波さざら 三汀

これは、「日本及日本人」（明治44年2月11日号）に掲載された久米正雄（22期）の句である。

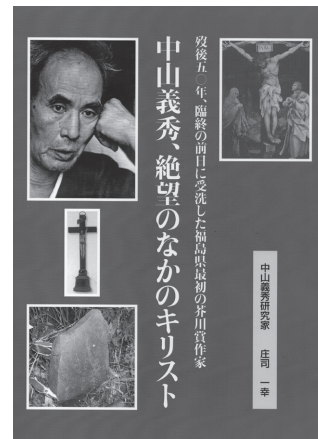
安中2年生の時に、叔父の助三郎からももらった『水彩畫梯』（大下藤次郎著）を手本にして、美術学校への進学を目指して、熱心にスケッチしながら作句した。

こうして、久米正雄独自の絵画的センスにあふれた句が生み出されたのである。

久米正雄は、明治43年3月24日安積中学校を卒業し、同年9月に推薦で第一高等学校一部乙に入学すると、東京俳句會に入り、河東碧梧桐に師事した。

そして、翌年（明治44年）1月7日、帰省した久米正雄は、十框庵で開催された群峯吟社の句会に出席した。出席者は西村岸太郎（雪人）、森合仙太郎（木仙）、今泉丈助（桐舎）、湯淺為之進（十框）など11名で、句題は冬の月であった。

この翌月に発表したのが、魚城の句である。この久米の句は、群峯吟社の



『中山義秀、絶望のなかのキリスト』の表紙

句会に出席するなかで生まれたのである。

この句により、久米は魚城の三汀、新傾向の麒麟児と呼ばれ、名声を博した。

この久米正雄の安積中学校時代の俳句活動を中心とした活動を著したのが、『郡山時代の久米正雄』（令和4年11月13日発行）である。

4. 俳句の師田邊彦彌と西村岸太郎

久米正雄の最初の俳句の師は、安積中学校の第1回卒業生田邊彦彌（三貝）である。学校名は福島県尋常中学校である。

田邊は卒業後、東京法学院に進学し、明治25年10月に、福島尋常中学校の書記として奉職した。

久米正雄が家族とともに、開成館1階に移り住んだ時、田邊彦彌がすでに住んでいて、母校で助教諭心得として、国語を教えていた。

田邊彦彌の父軋は二本松藩士であり、明治維新後藩庁に勤めていたが、その後、「福島毎日新聞」、「福島新聞」を創刊した新聞人であった。

正雄は安中4年の秋同級生たちと俳句愛好会笹鳴會を結成し、第1回の句会を自宅で開いた。この句評を田邊彦彌に依頼したことから、彦彌から俳句の指導を受けることになった。第1回句会の時に、久米が詠んだのが、次の句である。

馬子急ぐ目に北山の時雨かな 三汀
5年生の秋、久米は雲の上の存在であった西村岸太郎（雪人）から、声をかけられた。

西村が安積中学校の教師たちとつくれた俳句愛好会浅香會の句会へ参加し、そこで、作った句の出来によって群峯吟社への参加の可否を決める

と言われ、久米らは歓喜した。句題は天の川で、久米は、次の句を詠んだ。

不漁や來ん此の汐明かり天の川
三汀

久米らはこのテストに合格し、以後群峯吟社への出席が認められた。

西村岸太郎の旧姓は東海林（しょうじ）で、羽前国村山郡高橋村（現在の山形県山辺町）の出身で、実家は江戸時代から三代続く医者であった。

岸太郎は、東京帝国大学を卒業後、西村家に養子に入り、明治36年7月9日安積中学校教諭として赴任した。

また、西村岸太郎と田邊彦彌は、野球部の顧問でもあった。

こおりやま文学の森資料館には、久米の4年生と5年生の時のスケッチブックが展示してある。

久米は野球に打ち込み、写生しながら句を詠んだ。

久米の俳句の師について著したのが、『久米正雄と俳句の師西村岸太郎と田邊彦彌』（令和4年6月17日発行）であり、『郡山時代の久米正雄』（令和4年11月13日発行）は安積中学校時代を中心に久米正雄の活動を著したものである。本稿で紹介した本の購入希望者は、問い合わせをお願いします。（電話：024-945-5473）

朝河貫一と 覇権なきアジア外交

浅川 章（76期）

1. 日本外交への忠告

第1次世界大戦の最中の1915年1月、日本は中華民国大總統袁世凱に対して対華21カ条要求を突きつけ、同年5月、中国側にこれを受諾させた。

内容は、山東半島や満蒙内の日本の独占的な特権を大幅に拡大するもので、日本は最後通牒を発して要求の大部分を認めさせた。中国国内では、これに反発して排日運動が高まっていった。これに関して、当時エール大学助教教授であった朝河貫一は対中国、対米国関係の今後を憂慮して、時の首相大隈重信に長文の手紙を書いた。大隈と朝河は東京専門学校以来の旧知の間柄であった。日本は明治40年代以降、大陸進出を進めていて、その独善的な外交に批判を加えていた朝河は、「日本の将来の一大事は支那に関する日米の相互感情如何に在り」とする観点に立って「日本の覇権なきアジア外交の基本精神」を提示し諄諄と説いた。

朝河はあるべき日中外交の基本路線として次の三原則を提唱した。第1は日中の共利共進、第2は東洋の自由、第3は東西世界の協調である。

第1に、日本と中国は歴史上・政治上共同の命脈を保ってきたのであるから、日中は対等の立場で互いに発展を助けあい共進しなければならない。

第2に、日本と中国は並行した関係を保ちながら競争的な友好関係に立たねばならない。そうあることによって、はじめて中国は西洋の束縛から脱し、独立主権を確立できることが出来るのであり、そこに自由東洋が実現するのである。

第3に、日中が共進し、東洋に自由が訪れたとき、はじめて東西世界が互いに刺激しあって協調が進む。

要するに朝河は、日米関係の将来の最も重要な問題は必ずや中国関係をめぐって生起するであろうことを予見していたため、将来にわたる中国問題の根本的な解決策として三原則を提示したのである。こうして朝河は

故郷を味わう、故郷に触れあう

そば うどん 酒処

鞍手茶屋

昼はボリュームたっぷりで
ヘルシーな そば・うどん
夜は品揃え豊富な
東北の地酒で一杯

大手町店 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービルB1
中山峠店 〒963-1304 福島県郡山市熱海町国道49号線中山峠

☎03-3213-2385
☎024-984-3774 〈店主〉上野千恵子

「将来の大利の為に目前の小利を捨てよ」、「覇権なきアジア外交を旨としたこの方針こそ日本は世界に対して大胆に明言すべき」と大隈に力説したのである。

その後の推移をみると朝河のこの三原則には、それから26年後における日米戦争への重大な岐路を予断するものがあった。のみならず今日において、アジア太平洋における覇権をめぐって対立する中国と米国をも戒める普遍的価値ある提言といえよう。

2. 日中関係の過去現在未来

巻頭言に関連して、政治・外交・安全保障上、日中関係は過去50年で最も厳しい状況にあると言われている。しかし、国と国との関係は政治的つながりだけではない。日本と中国の間には経済や貿易、文化面など2000年にも渡る交流の歩みがあり、日本国家の黎明期には漢字や貨幣、仏教などの伝来、律令国家の法制の導入、室町・江戸期の漢籍や絵画の輸入など、現代に至るまで脈々と続いている。近代に入っては、アジアで先行して近代化を成し遂げた日本に亡命または留学して中国革命を推進した孫文をはじめ、革命や近代化に貢献した周恩来

や魯迅、郭沫若など巨大な人的交流がある。翻って両国が敵対して干戈を交えたのは白村江の戦い、元寇、文禄・慶長の役、日清戦争、日中戦争等が上げられるが、底流に友好的な善隣関係史がベースにあったのは論を待たない。元来、同じ儒教圏、漢字文化圏であって倫理観や美意識、食文化も共通するところが多く、文化的な同質性は高いものがある。例えば、貿易分野では国交正常化以降、両国の通商関係は発展し、日本にとって中国は、2007年以降最大の貿易相手となっている。

朝河博士が日中両国は共同命脈と評したように地政学的にも歴史的にも関係が強く、互いに向き合わざるを得ない隣国であることは変わらず、安定した関係を築く切実さはむしろ増している。半世紀、否一世紀先を見通して、双方は一時的な対抗心や感情に流されず、対話と交流のパイプを太くして、対等・互惠の理念に立って善隣協調関係を維持発展すべきであろう。(参考文献：阿部善雄 最後の「日本人」朝河貫一の生涯)

後藤新平に学ぶ

櫻井 淳 (78期)

今年に関東大震災から丁度100年の年です。1923年(大正12年)9月1日12時2分、マグニチュード7.9の巨大地震が関東を襲いました。約10万5千人が亡くなったと言われています。大正生まれの母親から、須賀川の田舎でも揺れ大きかったと聞いたことがあります。不思議なことに、100年前の世界と現在は非常によく似ています。スペイン風邪が世界中で大流行し、当時、日本でも38万8千人も亡くなっています。日本の人口が約5千万人の時ですから、相当な数でした。現在、世界で流行しているコロナの世界的パンデミックに酷似しています。そして、第1次世界大戦が1918年に終結しています。あの忌まわしい塹壕戦として名高い第一次世界大戦は、2014年に始まったロシアのウクライナ戦争に似ています。21世紀も今頃になって塹壕戦が行われていることに驚きです。

壊滅的打撃を受けた東京市の復興



ウイン調剤薬局

～ 人と人のつながりを愛します ～

【保険薬局グループ 処方せん受付】 (<http://www.winpharma.jp>)

ウインファーマグループ創業25年 安心・安全・信頼を築き、心を込めて調剤します。

【インターネット医薬品販売】全国配送します。下記URLからご注文下さい。

ウインドラッグ楽天市場 www.rakuten.co.jp/winpharma/

ウイン調剤 幸薬局 (横浜市特定販売許可101040054)

TEL 045-243-4013 FAX 045-243-4101

(薬剤師相談 月～金 9:00～18:00)

E-mail winpharma@shop.rakuten.co.jp

○マスク・一般医薬品・コロナ検査キット等 ドラッグ品

一定額以上送料無料



代表 藤田 勝久(82期)

を担ったのが、当時の内務大臣で、帝都復興総裁の後藤新平です。彼はその前の年まで東京市の市長であり、いわゆる後藤の大風呂敷と言われる壮大な復興計画を策定しました。しかし、その計画の予算規模が膨大であり、政変にもあい、この案は実現しませんでした。後に昭和天皇が後藤の案が出来ていれば、東京大空襲の被害も少なかったろうと言ったようです。彼は単に壮大な計画を立てたのではなく、基本的に医者視点で仕事をしていました。

後藤新平が最初に卒業した学校は、当時、福島県の須賀川にあった医学校でした。彼は1857年（安政4年）に岩手県奥州市水沢に生まれ、彼が属していた伊達藩留守家臣は戊申戦争に敗れて土着平民となりました。しかし彼の才能を見いだした、胆沢県大参事・安場保和（熊本藩士）の書生となり、その才能を開花させます。彼の仕事を見ると全て医者態度が伺え、患者を徹底的に調査し、その課題を解決すべき処方箋を作成しています。後に児玉源太郎台湾総督に台湾総督府長官に信任され、植民地台湾の政策を任

されます。その施策は台湾を豊かに変えていきます。台湾の主要産業に砂糖を育て上げたのは、新渡戸稲造を強引に引き込み、気候風土調査した結果でした。またアヘンの問題を解決する施策を考えたのも、彼でした。単に禁止するのではなく、アヘン患者の気持を利用しながら、行政にも利があるシステムを考える。あのアメリカの禁酒法がかえってカボネたちを榮えさせたことは真逆なことを台湾で実行し、アヘンを駆逐したと言われています。特に東京の復興計画では、今の区画整理法の諸元的施策を考案しています。江戸時代の江戸的風景の残る東京は狭い街路で構成され、都市インフラは脆弱で、そこに大震災が襲ったので、被害は甚大でした。延焼を防ぐ防火帯（火除地）が無かったので、一旦火がつけば街並みは瞬く間に火の海になりました。この防災帯と言うべき広い道路を確保するために、当時の大規模土地所有者（旧大名や華族等）が土地の1割を出すと、この土地価格が3倍にもなるという、今で言う減歩率と増進率の考え方を、その解決策として提案しています。その処方箋がとてもユニーク

でした。現在でも、昭和通りや靖国通りはその時の遺産です。

私は、後藤新平には縁があって、同じ岩手水沢の武家屋敷で育った片桐清治（1858年生）が私の母親の祖父で、水沢の同時代の3傑人、後藤新平、斎藤実（総理大臣）、山崎為徳（同志社教師）の同期同郷として、後藤新平と良く交わっていたと聞きました。曾祖父・片桐清治は、山崎為徳が水沢に戻れなくなったため、旧藩主留守家の殿様から支援を受け、新島襄の同志社で学び、仙台3番町教会の初代牧師となって、東北のキリスト教の伝道に寄与しました。後藤が仙台を訪ねた折には片桐清治と親しくしていたようです。

今、東日本大震災から13年しかたっていませんが、南海トラフ大地震も想定され、100年前のことを思いながら、都市デザイナー後藤新平は「国家にとってその都市は中枢神経のような存在である。」と言ひ、綿密な処方箋で大風呂敷の復興計画を立案しました。このことに学びながら、大震災に備える防災・減災の処方箋を描きたいと思っています。

特集 安高生のころ、将来は何になりたいと思っていましたか？

安高生と呼ばれた頃

平田 勝也（76期）

昭和35年、当時は特別な目的もなく漫然と皆が行くから僕も行く程度の気持ちで、殆んど競争もない受験で入学しましたが、門をくぐるとそこは競争社会でした。毎回張り出される成績順位表に一喜一憂する世界に放り出された気分が致しました。

いわゆる灰色の青春ではありましたが、それなりに学内の出来事があり、当時安保闘争の最中で、時代の大きな変革期だと授業の合間に歴史の先生が熱く語ったり、学校祭で静々と本校から郡山駅前まで行進しました。授業中ふと外を見ると、サッカー授業で濛々と砂塵を上げる生徒達がおりました。修学旅行は貸切客車で荷棚に寝る生徒もいて、特に清水寺や二見ヶ浦の印象

が強く残っております。因みに、国語・歴史・音楽教科は勉強というよりも、楽しみながら授業を受けた記憶があります。昼休みを待たず、皆と購買部で揚げパンなどを買った記憶もあります。

現安積歴史博物館の旧校舎は天井が高く重厚な木造建築ではありますが、うす暗く冬は寒い教室で、新校舎の方が明るく黒板が見易いように感じました。

在学中は何となく公務員や公共事業の責任者となって国民に貢献する道を選ぶべきだと考えていましたが、大学は資源工学科応用地質学講座に属して建設コンサルタントに入社し、爾来特にダム関係を主体に殆んど分野の公共事業に従事して内外の地質調査業務を手掛けました。九州から北海道まで転勤を繰り返し、ヨーロッパの歴史的な原初ダムや有名な事故ダムの視察、オーストラリア・ニュージーランドの

世界大ダム会議出席及び現地の諸ダム等視察、東南アジア建設事情視察旅行、インドネシア・フィリピンの流れ込み発電・農業ダムの立地FSなどの業務も経験しました。ダム関連では、主任技術者として7つの大ダムの初期段階から竣工に至るまで従事しました。このように、在校中に漠然と考えていた夢は必ずしも実現していませんが、ややその一部分は達成したのかなと思っています。

現在、世界は大きな困難に直面し、日本の敗戦後、世紀の大変革期の最中にあります。この間、日本は高度成長期を経て失われた30年と呼ばれる長い停滞期を苦しんでおり、暗中模索で未来の姿を探っております。

このような時代にあつて安積に学んだ意義を考えると、粗削りではあるが果敢なる未知の分野への挑戦、歴史的な時代に貢献した諸先輩の存在、故郷郡山市に由来する自由闊達な進取の気

風、豊かな自然環境等々、優れた環境下にあると思います。安高は、2001年には共学制に変わり、バンカラのみでなく新しい伝統が築かれつつあり、また近々中高一貫校となるそうで、更に新しい歴史が加わりそうです。

私が後進に望むのは、時流に流される安易な流行を追うことなく、謂わば先輩方の残した安積魂をバネにして、己を凝視し、本当にやりたい道を探し、考え抜いた世界観を持ち、身近に地球規模の思考・行動を起し、大袈裟には宇宙を見据えて進路を探って欲しいと思います。

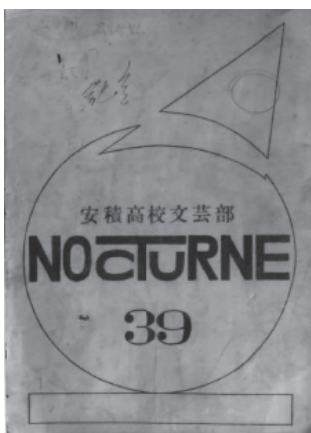
このまま世界を放置すると、人口の果てしない膨張・資源の浪費・環境悪化・戦争続発により、人類の永続が難しくなるかもしれません。遠い未来に、かつて人類と呼ばれる生き物がいたと言われないうようにしたいものです。

夢のあとさき

安部 直文 (80期)

いまはどうか知らないが、私が入学した頃に安高ゆかりの文筆家として名を轟かせていたのが、高山樗牛(安高が福島尋常中学校と称していた当時に在学)、久米正雄(旧制安積中学校)、中山義秀(旧制安積中学校)の三氏だった。したがって、入学後にそれを知ってジャーナリストや小説家を志す人が少なからずいたように思う。なかでも歴史小説の泰斗・中山氏は、私が入学した年に開催された創立80周年記念式典(1964年9月)で講演をし、その警咳に接した生徒たちに多大な刺激を与えた。

手許にA5判103ページの小冊子が



ある(写真)。文芸部の文集で、18名が20編の創作(小説)、随筆、散文詩を発表している。私は「背教者」と題する、2段組み12ページ半にわたる歴史小説を書いた。末尾に「66年10月14日、世界史の授業中」に脱稿したとの付言がある。世界史の担当は、竹花栄明先生だった。3年生の私は、私大文系学部を受験科目(国語・英語・日本史)以外の授業はもっぱら小説執筆にあてていた。無論、教師の目を掠めてのことだが、竹花先生だけは堂々と(?)書いていても、知らんぷりをしていた。

1966年11月に発行されたこの文集は、39号目にあたる。創刊がいつだったのかは判然としないが、歴史の長さを感じさせるには充分な号数である。そして、たかが高校生生の雑文を寄せ集めた小冊子の発行をかくも長く支え続けたのは、巻末の広告であろう。柏屋、郡山財団法人病院、津野、関川栄達商店、郡山魚市場など有名無名の24社・店が出広している。当然ながらツテ頼みの広告で、校門近くの増子食堂は懐かしい。ここでよく食べた中華そば(ラーメン?)は、一杯100円前後(?)だったように思う。

ともあれ、自作の歴史小説が活字になった「NOCTURNE」を真っ先に届けに出向いたのは、中学の同級生の家だった。白状すると、彼女に読んでもらいたい一心で書いたのである。その時、私は「小説家になる夢」を熱く語ったに違いない。約30年後、郡山で開催された中学の同窓会で偶々隣り合わせの席になった。開口一番「まだ書いているの?」という問いかけに、「有名作家にはなれなかったけれど、文筆業を続けています」と答えるのが精一杯だった。

文筆業とはいえ、売れない小説を書いても暮らしが成り立たない。勢い、確実な収入になる道を選ばざるを得なかった。そのせいで、数多の出版物に関わった約半世紀の間、ようやく26冊の自著を上梓できたものの、小説は皆無である。74歳になった現在、甚だ遅ればせながら(手遅れ?)、高校生以来の「小説家になる夢」の実現を夢見る日々を過ごしている。

高校生の自分に会いに行きました

遠藤 祐太郎 (127期)

皆さんは高校生の時、将来何になりたいか、何をしたいか、どのように考えていましたか?今回、寄稿のご依頼をいただき、約10年前の自分を振り返りながら書いてみます。

入学した時の私の将来の夢、それは「プロ野球選手」でした。今思い返すと恥ずかしいのが正直なところですが、将来の夢を持ち毎日を頑張っていた自分は嫌いではなかったです。「安積高校野球部で甲子園に出場!甲子園で活躍してプロ野球選手になる」、これが安積高校入学当初に描いていた夢でした。

話は少し遡りますが、幼少期の頃から安積高校野球部OBの父に連れられ安高野球部の応援に行っていました。私学にも負けず県内ベスト8、ベスト4まで勝ち進む安積高校野球部は私にとって憧れの存在であり、自然と安積高校で野球を頑張りプロ野球選手になることが夢になっていました。

さて、念願の安積高校野球部に入部できた私ですが、挫折からのスタートでした。先輩方はもちろん同級生と比較しても基礎体力のなさを実感し、きつく辛い毎日だった記憶が強いです。そんな私でしたが新チームでようやくレギュラーとなり、最後の半年間は自信を持ち楽しく野球に取り組みました。最後の夏は三回戦で日大東北高校に敗れ、悔しい思い出となりましたが、精一杯やりきったという思いもありました。野球部を引退となり、その頃には自分の実力はよく分かっていたので「もう野球はいいかな」と考えていました。

さて、部活動引退後のメインイベントは大学受験です。私の場合、志望大学を決めることからのスタートでした。(遅過ぎです…)「大学で何を勉強したいのか」初めて真面目に考え、出てきた答えは「スポーツを学びたい」でした。高校の部活動を通して精神論は学ぶことができましたが、「野球の技術力や戦術(試合の勝ち方)、試合に向けたメンタルや体のコンディ

ショニングを学び実践していたら、良い成績を残すことができたのではないかと考えたのがきっかけです。また、当時は2020年東京オリンピックが決まっており、スポーツビジネスにも興味がありました。「スポーツ科学・スポーツビジネスを学び、いずれはスポーツに関わる仕事に就きたい」その想いで大学受験に挑み、一浪の末、早稲田大学スポーツ科学部に合格しました。

そして現在ですが「ITでスポーツを支え、日本のスポーツを活性化させたい」という思いのもと入社した会社でスポーツくじ事業に従事しております。仕事内容はスポーツの“ス”の字も感じられない事も多いのですが、日本のスポーツに微力でも貢献できていれば幸いとの思いで邁進しております。

最後になりますが、ここまで私の拙い文章を読んでいただきありがとうございます。日々仕事に忙殺されている毎日ですが過去の自分に会いにいき、振り返ることができた貴重な時間でした。ありがとうございました。

斎藤一人さんと私 ～特別支援教育は、教育の 原点～

成田 智彦 (114期)

こんにちは。いつも感謝しています。あなたは、めがねをかけている人に対して、ずるい・不公平と思ったこと

はありますか。あまりないのではないのでしょうか。ところが、学校においてこの「めがね」にあたる支援が、ずるい・不公平であると考えられてきた過去があります。例えば、定期テストや入学試験の際にルビを振る、別室で受験をする、試験時間を延長する、問題文を読み上げるなどの支援・配慮が行われた場合などです。これらは、発達障害（自閉症スペクトラム、学習障害、注意欠陥多動性障害）などがある子どもたちへの配慮の一例です。過去の学校教育において、「めがね」、つまり「配慮や支援」が届かない環境で学習していた子どもたちが、一定数存在していました。

学校教育において子どもたちに適切な「めがね」を与え、学習できるように配慮すること。つまり、一人ひとりの教育的ニーズに応え、人的・物的環境を整えていく営みが特別支援教育です。「特別支援教育は教育の原点」と指摘されるのは、このように個別に教育的なニーズに応えながら、個別最適な学びの保障を前提としているからです

しかし、このような支援や配慮は、障害のある子どもたちのためだけのものなのでしょうか。例えば、パソコン、スマートフォンなどの通信機器（タイプライター、電話）は、元々は視覚・聴覚に障害のある方々のために開発されたものです。それらが進化を遂げ、現在は多くの人々に必要不可欠な存在となっています。このように、障害のある人々への配慮と支援は、より長期的な視点で捉えると、全ての人々への支援や配慮にもつながっていきます。

これまで「今を精一杯に生きる」子どもたちの支援を通じて、私自身が「めがね」のような存在になればと考え、特別支援教育に10年以上従事してきました。今後も「配慮を要する子どもたち」の支援を継続していきたいです。

※みなさんは、斎藤一人さんという実業家をご存知でしょうか。「銀座まるかん」の創設者で、累積納税額・日本一（2004年までの合計納税額が173億円）を達成している大富豪です。斎藤一人さんは、たくさんの書籍を出版されていますが、その中で私が特別支援教育に関することで御縁のあった書籍があります。

『知らないと損する不思議な話』（PHP文庫）という文庫の書籍です。18～23ページと、134～141ページにて、ダウン症や重い障害のある子どもたちへの支援で悩んでいることに対して、斎藤一人さんからアドバイスをしていただきました（書籍中に実名で記載されています）。斎藤一人さんの書籍が、コロナ禍におけるみなさんにとって、何か参考になることもあるのではないかと思います。献本したいと考えています。

献本をご希望される方は、naritatomohiko963@gmail.comまでご連絡ください。送料も含め、すべて無料で郵送いたします。献本を通じて皆様に貢献できれば、とてもうれしいです。

すべての出会い、すべての御縁に感謝しています。

ウクライナ戦争後の世界と日本の立ち位置について

宗像 淳 (107期)

「パパ、私、人類は滅亡すると思うんだよね」

高一の長女の発言にびっくりさせられた。「どうしてそう思うの?」「だって恐竜だって滅亡したじゃん?」「人

類滅亡」を高校生がさらっと発言してしまう時代、そう思って軽くショックを受けた。

私自身、過去に「人類滅亡」を考えた事がある。私は1975年生まれで、子供時代に「ノストラダムス本」を読んで「死」というものに対して、漠然とした恐怖感を頂いていた。

あれから30数年。私は47歳だ。先の見えない時代だが、子供の世代に未来を提示する義務がある。今回の寄稿では、私なりの未来予測に関して概説

したい。

その1。技術革新の時代。アメリカのベンチャーキャピタルがしばしば引用するのがカロータ・ペレズの理論だ。産業革命後の技術革新が60-70年周期で起きているという説だ。1771年に始まった産業革命（第一波）、1829年の鉄道と蒸気（第二波）、1875年の電気・鉄・重工業（第三波）、1908年の石油・自動車・大量生産（第四の波）、1971年のITの時代（第五の波）。もし彼女の理論によれば、次の波がそろそ

る始まる。

そろそろ次の技術革新の波が来るのだとすれば、我々が考えるべき事は何だろうか？恐らく次の波は、「コンピューターとインターネット、そしてプラスα」になるだろう。そして、今までインターネットが入り込んでいない領域に、インターネットが入り込んでいくことは間違いがない。既存の産業や社会構造を新しい技術サイクルを前提にアップデートしていくことだ。日本は幸いにして世界に名だたるIT大国だ。希望を感じる。

その2。世界は「新冷戦時代」に突入した。ロシア・ウクライナ戦争により、欧米・中国・ロシアの緊張関係が先鋭化している。そして、我々は日本が米国の軍事同盟国である事を再認識した。米国の要望があるのだろう、岸田政権も軍事費を増強する方針だ。

一方、ロシア・ウクライナ戦争は、「狂ったプーチンの暴走」ではない事を抑えておきたい。旧冷戦構造時代を引きずったNATOが「ロシア封じ込め」を継続、ロシアの周辺にミサイルを配備した。その反作用としてのロシア・ウクライナ戦争だ。戦争は絶対的

に良くないが、ロシアの混乱を大変な努力で収束したプーチンにとってみれば、一定の合理性があったという事だ。そして、世界はもはや一枚岩ではない。国連のロシア非難決議では、中国、インド、アラブ、アフリカ諸国35か国が棄権。アメリカ一極時代が、名実ともに終焉し、米・ロシア・中の3極時代が到来した。

アメリカは、中国の台湾進攻に神経を尖らせている。米国企業に、中国から工場を引き上げるよう働きかけている。日本も、親米チームの一員として、中国ビジネスからは大きく後退する道を選ばざるを得ないだろう。

その3。このような新冷戦の背景になっているのは何か？私は、先進国での経済的な成熟、もっとドラマチックに言えば、「資本主義の行き詰り、民主主義の弱点の露呈」であると考えている。

欧米の先進国は、経済が成熟、少子高齢化、財政赤字、貧富の格差が広がっていて、社会不安が高まっている。ピケティがいみじくも述べたように、「富の一極集中が進みすぎて、多くの人にとっては、富が存在している事が分からなくなっている」

民主主義では、政治家は「票」必要としている。そして、「票」には「カネ」が必要だ。政治家は、党員を賄い、活動資金を提供する必要性から、「GAFAM」等の企業や、「富裕層」に対して、配慮した政治を行わないといけない。そして「金持ち優遇」は大衆の反発を生む。

政治的には、「共通の敵」を外に求めやすいのだ。この意味において、トランプの外国を非難する過激な言動は理にかなっているし、今のバイデン政権も、外国に敵を作るという点で、トランプ以降の流れを組んでいる。

このように「新冷戦」時代は、ある種、「歴史の必然」である。そして、当面「民主主義vs非民主主義」、「資本主義vs非資本主義」の間で、世界の政治・経済は揺れ動かざるを得ない。

上記の通り、これからの時代は、「技術変化」、「政治の機能不全」、「外交対立」を前提として展開されると思うべきである。さて、このような時代に、日本が果たすべき役割は何か？私はやはり「日本精神」の輸出によって世界貢献をすべきだと考えている。

日本は確かに第二次大戦という過ちは犯したかもしれない。しかし、明治期に日本を訪問した外国人がみな感嘆したような、高い道徳性、教養の高さが日本にはあった。海外から色々な文物を取り入れて、日本独自の感覚で磨き上げ、昇華させるのが得意な民族だ。アメリカから「アメコミ」を取り入れた日本は、Mangaを世界に輸出している。フランスでミシュランの5つ星レストランの副料理長は、日本人ばかりだそう。

実は、私は、「歴史人口学」というのに興味がある。大変興味深いことに、過去の人間の歴史は、技術革新をきつ



野田 葵 (137期)

小橋クリニック

院長 小橋主税 (86期)

福島県須賀川市仁井田大谷地172-3
TEL 0248-72-1555

かけとした人口の増加の時代と、その後の停滞の時代の繰り返しであった。そして、人口が増える時代は、「経済的な豊かさ」に目が向く一方で、人口停滞期には、「芸術・文化・思想・宗教」そういった内面的な豊かさが重視される傾向がある。(金閣寺と銀閣寺の対照をイメージしてもらえれば分かりやすいかもしれない)

今後、世界は人口停滞フェーズ、人口減少フェーズに入ってきているのは間違いない。そして、世界の人々は、これまで「資本主義による」豊かさを追い求めてきた。そして一定の成果を得つつも「資本主義の曲がり角」の時代に来ているのは間違いない。明治維新後、「資本主義」を取り入れてその「いいところとダメなところ」を理解している日本人が、次の未来を描くべきである、と主張するのは言い過ぎであろうか。

株式会社ダイナックス 都市環境研究所

代表取締役
佐久間 信一 (91期)

弊社は社員20名程度の環境・防災・まちづくり関連のコンサルタント会社である。この会社と私の出会いは、大学時代に友人の誘いに応じたことにはじまる。

○空き缶調査のアルバイト

今から、40年以上前の大学2年生の時、講義が終わった時だったと思うが、友人から「親戚のおじさんがアルバイトを探している」との誘いに、そばにいた私が応じた。

当時、京都市ではポイ捨てされる空

き缶対策として、「空き缶条例」制定の議論が行われていた。条例の議論と並行してポイ捨ての実態把握のため、現事務所(以下「ダイナックス」)が調査にあっていたのである。

調査は、観光地でゴミを拾い、数を数えることを繰り返した。そのうちに、自販機の飲料容器の底にシールを貼って、ポイ捨てされた缶の分布の調査。飲料を購入した人の後を追跡し、飲み終わりやその後の処理の観察。嵐山ではゴミ箱の場所の位置を変えてゴミのたまり具合の調査等、いろいろ調査を行った。それまで「ポイ捨てはモラルの問題」とされてきたが、実態把握をいろいろな角度から行い対策を考えるというものであった。結局アルバイトは3年にも及びんだ。アルバイトを通して社会調査の面白さを知ったように思う。

○東京での途中下車

そんな学生時代を過ごしたが、卒業後は大阪で流通関係の仕事に就いた。郡山への出店計画があったからである。ダイナックスの事務所は東京にあり、田舎に帰省する時に時々立ち寄っていた。年末は窓ふきをしたり、社

員の家に泊めてもらったり、まるで、サークルの仲間たちに会うような心持であった。働いて3年が過ぎたころに、郡山への出店計画は白紙撤回となった。今後どうしようかと考えていた時に、ダイナックスに立ち寄ると「猫の手も借りたいので、来ないか」と誘われ、それに応じた。田舎に帰る前の途中下車、1989年のことである。

○道の駅の社会実験

ダイナックスに入社すると会社の名刺と地域交流センター(後にNPO地域交流センター)という組織の名刺を渡された。地域交流センターは、ダイナックスの元代表が作った組織で様々な提案型の事業を実施していた。道の駅の社会実験もその一つで、私は、入社3年目で地域交流センターの担当者として、岐阜県高山市界隈に2年間通った。複数の自治体(初年度は7町村)の協力により「道の駅」を設置してもらい一定期間運営してもらおうのである。多くはテントやプレハブ造りで、運営は各自治体が商工会や農業等の協力のもとで実施した。シンポジウムである牧場主の提案があったのが1990年。それを実現するために社会実験



野田 葵 (137期)

むさしのきずな法律事務所

代表弁護士 安孫子 哲教
(115期)

〒180-0003
東京都武蔵野市吉祥寺南町2-2-5
アスコーナミエビル6階
E-mail: abiko@m-k-lawoffice.jp
TEL: 0422-662-2921 / FAX: 0422-662-2923
是非お気軽にご相談ください!

労働保険の特別加入 1人親方労災保険加入のご用命は!

労働保険事務組合
神奈川SR経営労務センター

会長 佐藤 重夫 (79期)
(特定社会保険労務士)

事務局 〒231-0005 横浜市中区本町4-36
朝日生命横浜本町ビル8F
TEL: 045-212-5269
FAX: 045-212-3177
<http://www.kanagawa-src.gr.jp>

21世紀をリードする 安積SPIRIT!

浅川 章 (76期)

〒338-0821 さいたま市桜区山久保2-18-3
電子メール: chobi@hyper.ocn.ne.jp

行ったのが1991年～1992年。そして翌年に、道の駅は国の制度となった。担当者として一連の動きに関われたことはとても有意義であった。

○空き缶のポイ捨て問題から空き缶のリサイクル・環境問題へ

道の駅の実験事業が終わり、私の業務は地域交流センターからダイナックスへとシフトした。ダイナックスの業務は、ポイ捨て問題よりもリサイクル問題へと変化していた。当時は、現場で多くの事例に触れ、現場の担当者の話を聞くことで仕事の礎となった。そんなことをやっているうちに、コンサルタントらしくなってきた。

それから、30数年、当初は廃棄物や地球温暖化についても環境問題という括りの中で仕事をしてきたが、テーマは細分化されて得意な分野も限定されてきた。一方で、防災関連などにテーマが広がった。プロジェクトを通じて、人や事例に触れ、より深く、より広く理解することで業務の範囲を少しずつ広げてきた。ノウハウは各スタッフにストックされ、それが受け継がれて今に至っている。ちょっとずつ社員の数も増えてくる中でこれまでの

ストックをどう整理するかを考えるこの頃ごろである。

ホームページの運用状況報告《最終回》

—創設20年目—

<http://www.tokyo-kuwano.com/>

芳賀 雅美 (86期)
(東京桑野会ホームページ委員長)

昨年はコロナ災厄のみならず、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が重なり世界中が激震した。原油を始めエネルギー関連の異常な高騰に苦しみ、世界中の物価上昇と食糧難や急激な円安による日本経済の沈下に苛まれ、我々の生活は大きく変化した。このような環境下では欧米先進国においても、極右政党やカリスマ首長がもてはやされる傾向にあり世界の情勢に大きな変化をもたらすことになった。日本においても選挙遊説中に元首相の安倍晋三氏が暗殺され、政局への混乱を招いた。一方新型コロナウイルス感染症は衰えを知らず変異しながら第7波・第8波と、

うねるように襲来する。根本的な対策はないのかと案ずる毎日である。

東京桑野会の活動はまた大きく制限されが、2年間中止していた定期総会・懇親会を変則的ながらも実施したことは、特筆すべき点であろう。会長不在期間が長期化し会則の改訂も考えたが、何とか総会での会員合意を取り付けて浅川章新会長を選出したことは喜ばしい。2022年度の大きな成果と考える。また今回は初の試みとして、総会をビデオ撮影しユーチューブにアップした。会員向けにホームページ上からも閲覧可能に設定したが、皆さんご覧になっただろうか。費用と効果のバランスとなるが、可能であれば次回も実施したいと考える。

当会ホームページは2003年3月の創設から満20年が経過した。毎年会報にて運用状況を報告してきたが、区切りの良いところで今回は最終回としたい。記事を読んでいただいた多くの会員には、心から感謝したい。

昨年度は幸いにもサーバー障害は全く発生せず、悪意のある第三者のハッキングもなく平穏に過ごせた。報告するような内容ではないが、恒例によりこの1年間の運用状況を下記しておく。

20年目についての改訂や追加コンテンツについては以下の通り。

- (1) 令和4年度(2022年度)の総会・懇親会の実施報告を動画投稿も併せて行った。
- (2) 浅川会長代行から正式に会長就任に伴う、表記について更新した。
- (3) 会員投稿のブログ形式記事については、2件を追加掲載した。引き続き会員の皆様からの投稿や情報提供を切に望んでいる。
- (4) 例年通りではあるが、会長の新年



野田 葵 (137期)

信愛病院

医学博士 渡辺 哲弥 (70期)

(練馬区東大泉7-14-15)

いのちを守る 平和を守る

本田 宏 (86期)
hondahiroshi@me.com

動画



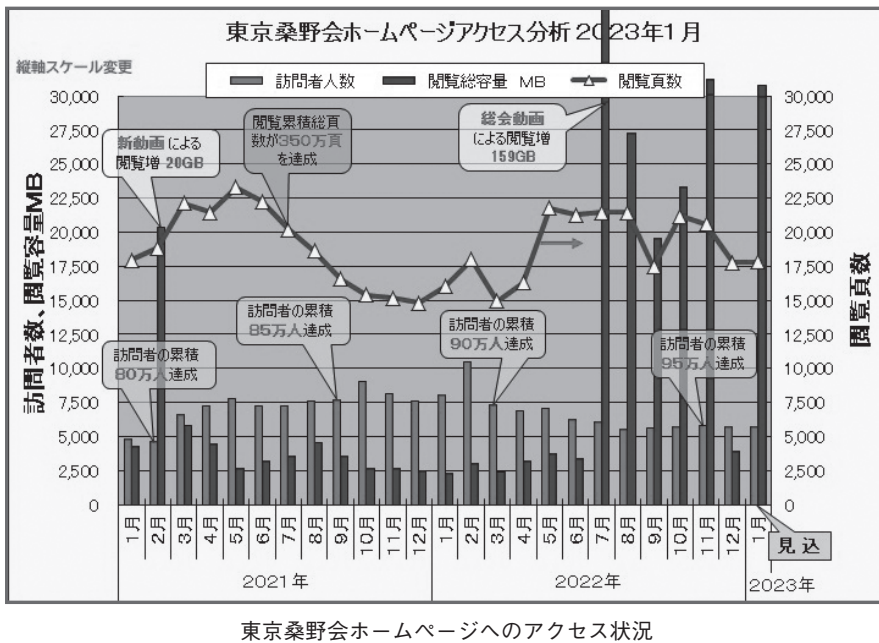
署名にご協力を



ごうや
山田・合谷・鈴木法律事務所

弁護士 鈴木 修一 (89期)

〒100-0012
東京都千代田区日比谷公園1番3号
市政会館1階115号室
TEL:03-3501-0451
FAX:03-3501-0452
E-mail:shuitisuzuki@nifty.com
<http://www.yamada-law.gr.jp>



度ご挨拶、役員・幹事名簿の更新を実施した。総会・懇親会の連絡を掲載した。

(5) 会報No.44号や総会資料(会務報告、決算・予算報告、参加者名簿)を掲載した。

ホームページ掲載記事の入手については、今後も一層の努力をしていきたい。

次いで当会ホームページへのアクセス状況について詳述する。

(1) 過去2年間分についてグラフで示しておく(別掲の図を参照:今年1月は見込みの数値)。

(2) グランドオープン以来、昨年3月に訪問者総数が90万人に達し、さらに11月には訪問者総数が95万人に達した。閲覧累計総頁数は、今年1月末には推定で383万ページビューに達する見込みである。閲覧数は、堅調に推移している。

(3) 昨年6月は閲覧容量が月間で

159GBと異常に増加しているが、定期総会・懇親会の動画を配信したため、多くの会員諸兄に閲覧していただいた。その後もしくは閲覧容量の多い月が続き、乱高下の様相を示している。

(4) この1年間の平均で、月間訪問者6511人、閲覧総頁数19151頁となっているが、訪問者数で前年比▲17.3%の大幅減、閲覧総頁数では前年比+2.7%のやや増となった。

訪問者数については、ホームページ全面更新の効果で2021年が過去最大の月間平均7870人と大きく前進したことに対し、少し戻して平常になったということだろう。閲覧総頁数については、2020年以降ほぼ横ばいを記録している。月間平均で閲覧総頁数2万ページビューを越えたいと個人的には考えていたが、かなり近い数値ではあるものの未だに達成されていない。引き続き会員の皆様のご協力を賜りたく

切に望んでいる。またコンテンツや情報の提供につきましても、随時事務局へご連絡頂きたく、再々であるがご協力についてこの場を借りて改めてお願いをしたい。情報がなければ内容の更新ができず、閲覧を求めるにはホームページの鮮度管理が大切であることは言うまでもない。

開設から20年間ホームページを運用してきたが、悪意のある第三者からの掲示板への大量のスパム投稿やメールアドレスの乗っ取りによる当会サーバーを利用した無差別大量メール発信、短時間による写真画像の大量ダウンロードなど、セキュリティに最善を尽くしてプログラムの改善を実施してきたが、そろそろ限界に近づいている。当会ホームページの将来的な安定提供に向けて、公的認証局による証明書発行の下にSSL暗号化通信を実現する時が来ている。コスト見合いとなるが、会長や事務局と相談し、費用対効果を充分精査して検討したい。今回で会報によるホームページ運用状況報告は終了とするが、今後も微力ながら当委員会にて更新作業を続けていくことには変わりない。会員の皆様のご利用推進を切にお願いしたい。長期間に亘り、ご愛読ありがとうございました。

安積歴史博物館から
(旧福島県尋常中学校本館
耐震補強工事)

業務執行理事
橋本文典(84期)

東京桑野会各位をはじめ、各地桑野会関係者の皆様には大変なご心配をお

新神田法律事務所

弁護士 上石利男(80期)

〒101-0044
東京都千代田区鍛冶町2-9-5 東園ビル7階
TEL03-3252-9671/FAX03-3252-9673
E-mail:shin9671@athena.ocn.ne.jp

新神田法律事務所

晴海パートナーズ法律事務所

弁護士 後藤大(107期)

マネージングパートナー

〒104-0045
東京都中央区築地2-15-19
ミレニウム築地6階

E-mail: gotodai@harumi-partners.jp
「晴海パートナーズ」で検索ください
TEL: 03-6264-1588 / FAX: 03-6264-1589

がんばれ安積 がんばれ日本

渡邊龍一郎(81期)

Watanabe Ryuichiro

〒170-0004東京都豊島区北大塚2-31-5-513
Phone: 090-1429-6127
E-mail: watanabe2021@ryu.bz

掛けいたしております。令和三年二月そして翌四年三月の地震により旧本館の壁面に生じたひび割れや一部崩落についての復旧工事が未だ開始されておりません。その最大の理由は耐震補強工事であります。東日本大震災以降、公共施設等については国土強靱化計画により、耐震装置の設置を一層進めることが必要とされました。旧福島県尋常中学校本館も博物館として一般公開している以上、この耐震工事は避けて通ることは出来ません。東日本大震災復旧工事の時も耐震補強工事の案件があったそうですが、そうそう大きな地震が発生することは予測できず、後刻何かの折に実施することとなったようです。

今回耐震補強工事を実施する大前提として、耐震診断が実施されたことは前号（第四四号）でお知らせいたしましたが、その時点では最終結果は出ていませんでした。その後、令和四年六月末に「耐震補強工事は実施すべし」と報告がありました。財団としては実施の有無や財源の手当て等、評議員の出席を求めて理事会を数回開催し、結論として「耐震補強工事を実施」と決定し、そのための実施設計を開始いたしました。

では、本格的な耐震補強工事の開始される時期についてですが、現在設計作業が進められ、四年度末には具体的な日程が示される見込みです。また、同時に工事金額についても判明する予定です。当初、旧福島県尋常中学校本館（安積歴史博物館）南側に建設される中高一貫校としての「県立安積中学校（仮称）」開校と同時の再オープンを目指しておりましたが、その時期

よりも遅れる見込みとなってしまいました。

ともあれ、大筋として令和五年三月末までには施工方法や期間、そして工事予算等が明確になるはずですので、その時点で工事を執行するか今後に繰延するかを最終決定することになります。今回の機会に耐震補強工事を実施する場合は「地震による災害復旧」とされ、国庫からの補助事業としては最大の支給率が適用されます。一方、後刻に事業を計画すると通常の実給率となり、当財団の財政状況を考えると資金計画が非常に厳しく、今回に工事を実施したいと考えます。

来館者の安全や、今後の旧本館の存続保存対策は可能な限り対処すべきと考えます。現時点で工事期間や金額は未定ですが、同様の工事を実施している国宝に指定された開智学校の規模と比較した場合、それ相当の金額と予想されます。安積の伝統は有形無形それぞれ引き継がれます。変えるものと代えられないもの、安積の次世代に引き継ぐシンボルである旧本館を維持するため、皆様のお力添えをお願い致します。

2023年に朝河貫一博士 生誕150年記念事業実施へ

福島民友新聞社記事より

【広報委員会より】福島民友新聞社の記事を引用し、今回の朝河貫一顕彰会便りといたします。

2023年に朝河貫一博士生誕150年記念

事業実施へ 福島県の関係機関が3年ぶり連絡会議 講演会や漫画で功績紹介

2022/11/27(日)11:19Web配信（福島民友新聞）（引用URL：<https://www.minpo.jp/news/moredetail/20221127102784>）

福島県二本松市出身の世界的歴史学者朝河貫一博士（1873～1948年）の生誕150年に当たる来年、朝河貫一博士顕彰協会は、博士に関係する市や団体などと協力し、記念事業を実施する。博士ゆかりの福島、郡山、二本松3市で記念講演会を展開する他、博士の業績を紹介する漫画の告知支援に取り組む。国際協調を訴えた博士の足跡にちなみ、平和の意義を問いかける。

26日、福島市の県立図書館で、関係機関が3年ぶりの連絡会議を開き申し合わせた。講演では博士の歩みと研究の意義などを専門家らが解説する。郡山市で初夏、福島市で夏に催す方向で調整する。二本松市では市が秋開催を目指す講演と連携する。朝河博士の父正澄が福島市立子山の住民から受けた「報恩之辞」のレプリカをはじめ、博士関連品の展示も計画している。

顕彰協会副代表理事の安藤智重安積国造神社宮司が、イラストレーターとともに博士にまつわる漫画を出版する予定で、普及に協力する。若者へ博士の足跡を伝えるきっかけにする。

会議の冒頭、顕彰協会の矢吹晋会長が「朝河博士が残したものは何かを考える年にしたい」とあいさつした。会議には福島民報社の安斎康史取締役編集局長が出席した。

奮い立て我健男児

大矢 真弘（88期）

石井総合事務所

司法書士・行政書士

石井 俊一（82期）

〒104-0061 東京都中央区銀座8-8-15
青柳ビル7階

TEL :03-3289-1411
FAX :03-3289-1422
E-mail : s-ishii@e-1411.com
<http://www.e-1411.com>

あらゆる**木質の床**を心を込めて施工します。
OKI法(床工事・内装工事)・調整床・板式敷床・フローリングボード
フローリングブロック・塗床・ネダホーム・OAフロアーその他一式工事

木質床(フローリング)施工

孝和建商株式会社

千葉市中央区汐見町16番12号

取締役総務部長 小林伸久(84期)
電話:043-245-4111 FAX:043-244-9550
携帯:080-2045-0962
E-mail:nobuhisakoba@dooomo.ne.jp

令和3年度決算報告書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

	決 算 額	予 算 額
1 収入の部		
(1) 前年度繰越金	181,974	181,974
(2) 年会費収入	794,000	830,000
(3) 総会費収入	0	0
(4) 協賛広告料	260,000	350,000
(5) 受取利息	19	2
(6) 雑 収 入	0	0
収入合計	1,235,993	1,361,976
2 支出の部		
(1) 総会懇親会費	0	0
(2) 通 信 費	13,824	50,000
(3) 会 議 費	0	0
(4) 会報作成費	342,760	342,760
(5) 会報発送費	256,535	256,535
(6) 事務消耗品費	94,380	100,000
(7) 母校後援費	0	20,000
(8) 冠婚葬祭費	0	20,000
(9) 支払手数料	60,915	70,000
(10) 人 件 費	90,000	360,000
(11) 交 通 費	0	30,000
(12) 名簿編集費	0	0
(13) ホームページ・広報部会運営費	24,960	30,000
(14) 雑 費	0	10,000
(15) 予 備 費	0	30,000
支出合計	883,374	1,319,295
次期繰越金	352,619	42,681

令和4年度予算案

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

	予 算 額
1 収入の部	
(1) 前年度繰越金	352,619
(2) 年会費収入	794,000
(3) 総会費収入	530,000
(4) 協賛広告料	260,000
(5) 受取利息	19
(6) 雑 収 入	0
収入合計	1,936,638
2 支出の部	
(1) 総会懇親会費	800,000
(2) 通 信 費	20,000
(3) 会 議 費	0
(4) 会報作成費	342,760
(5) 会報発送費	256,535
(6) 事務消耗品費	100,000
(7) 母校後援費	0
(8) 冠婚葬祭費	0
(9) 支払手数料	70,000
(10) 人 件 費	120,000
(11) 交 通 費	0
(12) 名簿編集費	0
(13) ホームページ・広報部会運営費	30,000
(14) 雑 費	10,000
(15) 予 備 費	10,000
支出合計	1,759,295
次期繰越金	177,343

3 財産目録 (令和4年3月31日現在)

A 特別会計

事業準備積立金 定期預金 (三井住友銀行) 1,068,031

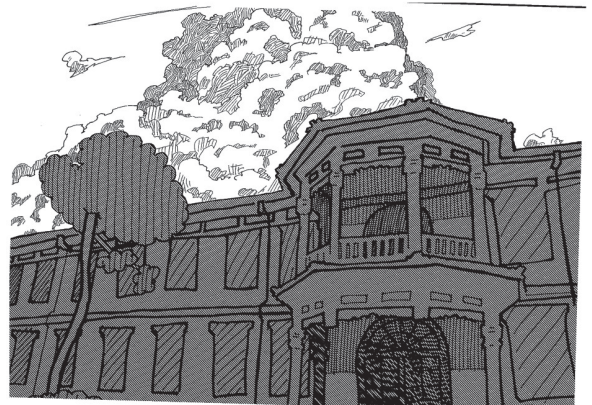
B 現預金

(1) 普通預金 (三井住友銀行) 212,273
 (2) 郵便振替貯金 127,125
 (3) 現 金 13,203

上記は監査の結果いずれも適正なものと認める。

令和4年4月14日

会計監査 関 根 健 治
 会計監査 宗 像 良 保



野田 葵 (137期)

株式会社櫻井計画工房
 取締役 一級建築士
櫻井 淳 (78期)

郵便番号: 231-0014
 住所: 横浜市中区常盤町2-10
 常盤不動産ビル 2F106
 TEL: 045-663-9271
 FAX: 045-663-9273

株式会社開成プランニング 代表取締役
 (<http://www.kaisei-planning.co.jp>)

和田 正哉 (77期)

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-2
 勤務先電話: 03-3230-8001
 FAX: 03-3230-8550
 携帯 : 090-3236-3883
 e-mail: wada@kaisei-planning.co.jp
 携帯mail: wada-masanori@docomo.ne.jp
 自宅電話: 047-332-2287

【会費納入のお願い】

東京桑野会の活動は、会員の皆様の会費によって支えられています。会報の作成・送付も会費によって賄われています。現在、会報を送付している会員からの会費納入の達成率が低迷し、東京桑野会の財務が逼迫しつつあります。東京桑野会の健全な財務状態を維持するためにも会費納入をお願いいたします。(東京桑野会は安積桑野会とは別会計となっておりますことご承知ください)

編集後記

本号の編集時期に合わせるように、WBCでの侍ジャパンのうち続く快挙にすっかり酔いしれています。

ことさら東北岩手の一高校が生んだ大谷翔平という人物。あまりにも傑出した器の大きさ、ずば抜けた才能をひけらかさない謙虚さという桁外れの資質に世界中が魅了され、いまだに余韻をひきずっているのは、まさに超常現象。迫り来るデジタル・オンパレード時代を悠然と睥睨する小気味よさがあります。

いずれの母校にも、他には真似のできない歴史や伝統が埋もれているものです。そこにおいて上下や優劣を競うものでもありません。

今年も、広報部長ほか編集関係者の涙ぐましい努力の成果で会報が日の目を見ることができました。東京桑野会会員のすべてが会報に触れていただけますよう念ずるのみです。

母校の歴史が長じれば長じるほど、若き卒業生が編集スタッフに加わらない限り支えきれません。歴史や伝統は人が創るもの、一人でも多くの参加者が待ち望まれます。(蹲踞)

107期の同期の宗像さんに寄稿していただきました。私たちは、後世から見たら、第三次世界大戦の真っ只中を生きているのかもしれませんが。朝河貫一博士の言葉をあらためて振り返るべきときのように思います。(後藤 大)

「アラコキ」って何のことかと聞えば、ちまたのはやり言葉で「アラウンド古希」のことだそうだ。この正月、妻にあなたのことよと言われ、お前もだろうと反論したら「アラまだよ」と返された。

人類の生物学的な寿命は55歳だそう。それが英知を集め世界平均が71歳まで伸びた。昨年データでは、日本人男性で平均寿命が81.4歳、70歳なら平均余命は16.0年なので86.0歳ということか。一方で日本人男性の平均健康寿命は72.7歳というデータもある。人類の医療技術はどこまで伸びるのであろうか。日本の人口は減少に転じているのに、100歳を超えた超高齢者は益々増えて9万人もいるのだそうだ。ただし9割は女性だってさ…。

(がっちゃん)

ここ最近感じるのは、世界が日々変化し続けることである。特に、AIが発達して各分野に応用されているのを見ると、本当に目まぐるしい変化を感じる。まさか手元に小さなパソコン(スマートフォン)を誰もが持てる時代が来るとは全く予想だにできなかった…。変化を恐れる自分だが、自分もAIに負けじと自分のアップデートをしっかりとしていきたいところである。

(115期・安孫子)

今号の特集は、新型コロナウイルス禍からの脱却状況を踏まえて、当該事象とは異なる2特集としました。特集では地元郡山より、久米正雄研究会の庄司一幸さん(石井幹事長の82期繋

がりです)から、寄稿頂いております。また、櫻井淳氏から、須賀川医学校出身(※須賀川医学校は福島県立医科大学の源流です)の後藤新平について、寄稿頂きました。そうそう、後藤新平も、Ohtani-sanも、櫻井さんも、岩手・奥州市の旧・水沢出身ですね。偉人が繋がっていますね～。

東京桑野会は、新型コロナウイルス禍を超えて、新たな時代へと向かいます。その象徴として、東京桑野会会報No.45をお読み頂けるとありがたいです。そのNo.45で、何より目に飛び込んでくるのは、母校の137期後輩が描いてくれた一連の旧本館(安積歴史博物館)です。こんな絵は見たことがありません。衝撃です。多くの安積関係者に、様々なストーリーを想起させる一連の作品です。皆さん、この137期生の名前を憶えておいて下さい。

(GF91)

【前号東京桑野会報No.44の訂正】

No.44に寄稿下さいました芳賀啓光氏は91期ではなく96期の誤りでした。謹んで訂正いたします。

『東京桑野会会報』No.45

2023年4月1日発行

発行・編集人●石井俊一

発行所●東京桑野会

〒104-0061

東京都中央区銀座八丁目8番15号

青柳ビル7階

石井総合事務所内

Tel 03-3289-1411 Fax 03-3289-1422

E-mail asaka@tokyo-kuwano.com

URL <http://www.tokyo-kuwano.com/>

製 作●株式会社キタジマ

〒130-0023 東京都墨田区立川2-11-7

Tel 03-3635-4510 Fax 03-3635-4515
